

京都市中京区における減災活動のための参加型ワークショップによる 地域診断－クロスロードゲームの活用

Community Diagnosis Based on a Participatory Workshop for Disaster Reduction in Nakagyo Ward, Kyoto City-By Use of the Cross Road Game

岡田 憲夫

Norio OKADA

1. はじめに

地域コミュニティの防災力向上には、自助・共助・公助のネットワーク化と相互補完による多様性戦略が重要である。「自助」・「共助」の基本は、個人や地域コミュニティの役割と助け合いが鍵となることが指摘されている。助け合いの地域防災力を平時から高めておくためには、地域コミュニティレベルで実行可能な防災活動計画を主体的に策定していくことが有効である。このような目的にかなう効果的な参加型ワークショップ手法が求められている中で、本研究では、地域コミュニティの共助・自助の災害対応力向上に着目し、被害者である住民が参加して計画・実行できる参加型ワークショップ技法の提案と京都市中京区の事例を紹介する。

2. ワークショップの概要

2009年7月に京都市中京区の中で旧来の住民が多く居住し活発な自主防災会活動を展開している朱雀第八学区を対象とし、地下空間と半閉鎖河川空間での避難者のリスク意識と避難挙動を解明するために、クロスロードゲームを活用して、都市水害に関するアンケートを実施した。調査では以下の四つの項目を取り上げた。

1. 地下空間や半閉鎖河川空間でのリスクの認識
2. 避難者の避難決断
3. 周辺環境に精通しているかどうかによる避難挙動の差異
4. 避難行動中の共助の役割

2.1 朱雀第八学区概要

朱雀第八学区(以下、朱八学区)は中京区の西北端にあり、右京区・北区に接する中京区人口も面積も最も大きい学区である(面積:1,055km²・人口:10,939人:平成17年2月1日現在)。昭和三年に円町～四条間に市電が開通してから開発が進み、昭和三十年代に丸太町通が西へ延伸してからは飛躍的な発展を遂げ、平成十三年には中断していた御池通りが天神川まで開通、学区内を遮断していた JR 山陰線が高架になると共に、円町駅が開業した(京都市、2007)。2008年1月には京都市営地下鉄東西線の延長に伴い「西大路御池駅」が開業した。古くからの近年マンションの建設も進み、今後人口増加が見込まれる地域である。

朱八学区の自主防災活動は、フリップ防災をはじめとするわかりやすさに重点をおいた独創的な教材開発と共に展開されており、その活動は内外から注目されている。

3. アンケート調査(クロスロードゲームを活用して)

2009年7月17日に町内防災会でクロスロードゲームを実施している途中で、アンケートを配布、その場で記入してもらい回収した。アンケートは、回答者属性に関する2項目、地下街水害に関する個人的考えを問う16項目、都市河川水害に関する7項目から構成した。

3.1 アンケート調査結果

アンケートはその場で回収したため、回収率は100%、回答数は25部であった。回答者の属性に関しては全体の男女比は「男性」56%、「女性」32%、「無回答」12%であった。全体の年齢は、「70歳以上」や「60歳代以上」の高齢者が合わせ、48%と最も多かった。以下、アンケートの結果を図-1～図-4にまとめる。これらの回答結果から、地下街と半閉鎖河川空間での避難経路選択、コミュニケーション手段、そして避難経路がわからない時の対応の傾向が把握できた。

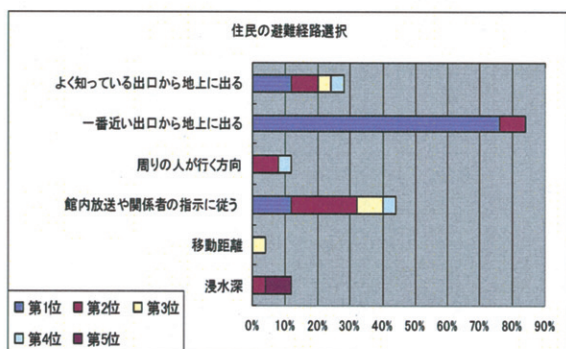


図-1 住民の避難経路選択

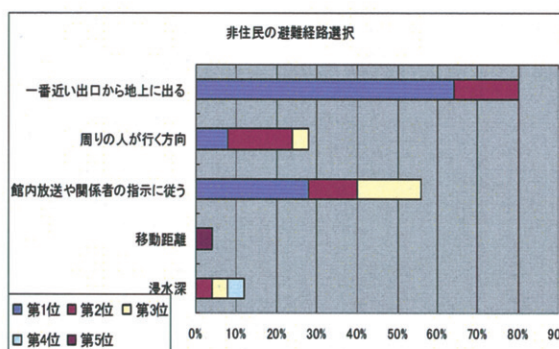


図-2 非住民の避難経路選択

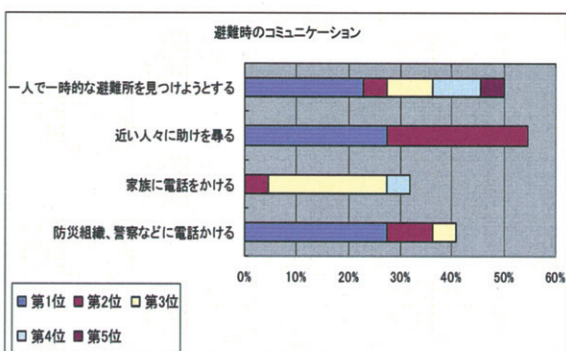


図-3 地下街の避難時コミュニケーション

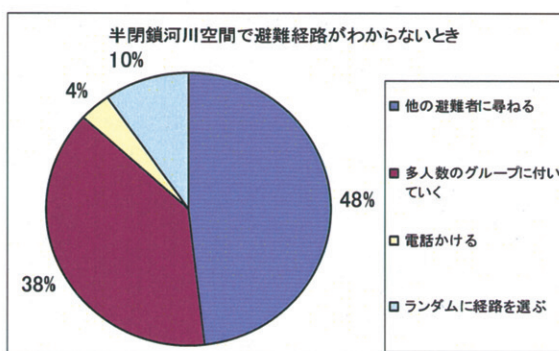


図-4 半閉鎖河川空間での避難

4. クロスロードゲーム

クロスロードの実体験に加えて、上記のアンケートを実施することも目的として、2009年7月17日の午後に自主防災会で六人一組、計五組のグループを作り、クロスロードゲームを実施した。(住民以外に、研究室の学生も参加した。)

4.1 クロスロードゲームについて

「クロスロード」は、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材である。カードゲームを通じ、災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士共有することによって、防災に対する理解を深めることができる。詳細はたとえば矢守ら(2005)や内閣府 URL が参考になる。

4.2 クロスロードゲームの実施

ゲームの手順の概要は以下のとおりである。

- ①じゃんけんで最初の人を決める。(順番は時計回り)
- ②順番が回ってきたら…手持ちの問題カードから読み上げるカードを1枚決め、読み上げる。
- ③全員で…メンバーは全員「自分ならどうするか?」を決めて、手持ちのイエス・ノーのカードを選び、裏を向けて自分の場に出す。
- ④ゲームの判定…一斉にカードを表に返す。
- ⑤賞品獲得…

基本 多数派の意見であった人は、青座布団を1枚取る。

例外 たとえ少数派でも意見がただ1人だった場合は金布団



図 - 5 2009年7月クロスロードゲームを実施した際の模様

あなたは被災者
<p>例:あなたは都市河川付近の住民で、御池地下街で買い物をしているとします。激しい雨が降り続け、階段から大量な洪水が流れてきており、階段から避難するのが難しそうです。周りを見たら、一時的に避難できる椅子と高い台があるが、増水が早く、長時間持ちこたえられないかもしれません。あなたは、地下街で一時的な避難をやめて、強引に階段から避難しますか？</p>
Yes (階段から避難する) or No (一時的な避難所を探す)

図 - 6 調査を目的として実行したゲームの一例

5. おわりに

本研究では、京都市中京区で実施したクロスロードゲームを活用して、都市水害に関する調査を実施することを試みた。まず本ゲームを用いて自主防災会の参加者たちと一緒に都市水害について真剣に考え、具体的場面を設定して災害リスクについての認識を深めてもらうとともに、回答者から避難行動特性に関する二者択一の回答結果を得た。その結果、避難者の地下空間や半閉鎖河川空間でのリスクの認識、避難者の避難決断、周辺環境に精通しているかどうかによる避難挙動の差異、避難行動中の共助の役割の四つの項目をめぐって、行動モデルを作成する上で有用な情報が得られた。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、吉川肇子先生(慶応大学商学部)には、クロスロードゲームの企画へのご助言と、実施にあたってファシリテーターを務めていただくなど大変ご協力をいただきました。また矢守克也先生(京都大学防災研)にもクロスロードゲームの活用の仕方についていろいろとご助言をいただきました。付して謝辞とします。

参考資料

岡田憲夫(2006):総合防災学への Perspective、総合防災学への道(荻原良巳・岡田憲夫・多々納一編)、京都大学学術出版、9-54

矢守克也、網代 剛、吉川肇子(2005): 防災で学ぶリスクコミュニケーション、ナカニシヤ出版
内閣府 <http://www.bousai.go.jp/km/gst/kth19005.html>

神戸市 <http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/hyogo/keikaku/bousai/img/d-4-9.pdf>